

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年9月13日(2007.9.13)

【公開番号】特開2006-282989(P2006-282989A)

【公開日】平成18年10月19日(2006.10.19)

【年通号数】公開・登録公報2006-041

【出願番号】特願2005-292669(P2005-292669)

【国際特許分類】

C 0 9 D 11/00 (2006.01)

B 4 1 M 5/00 (2006.01)

B 4 1 J 2/01 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 11/00

B 4 1 M 5/00 E

B 4 1 J 3/04 1 0 1 Y

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月1日(2007.8.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(A-1) 着色剤を含有するポリマー粒子、(B) ポリマー粒子、及び(C) 水100gに對する溶解量(20)が5g以下である水不溶性有機化合物を含む、インクジェット記録用水分散体。

【請求項2】

(A-2) 自己分散型顔料(B)自己乳化ポリマー粒子、及び(C) 水100gに對する溶解量(20)が5g以下である水不溶性有機化合物を含む、インクジェット記録用水分散体。

【請求項3】

(B) ポリマー粒子が、塩生成基含有モノマー由來の構成単位を含む自己乳化ポリマー粒子である、請求項1又は2に記載のインクジェット記録用水分散体。

【請求項4】

(B) ポリマー粒子が、反応性界面活性剤の存在下、エチレン性不飽和モノマーを乳化重合してなるポリマー粒子である、請求項1に記載のインクジェット記録用水分散体。

【請求項5】

(C) 水不溶性有機化合物が、分子中に、エステル又はエーテル結合を2個以上有する、エステル又はエーテル化合物(f)、及び/又は、分子中に、エステル又はエーテル結合を1個以上と、カルボキシ基、スルホン酸基、リン酸残基、カルボニル基、エポキシ基及び水酸基からなる群から選ばれる1種以上の官能基を1個以上有する、エステル又はエーテル化合物(g)である、請求項1~4のいずれかに記載のインクジェット記録用水分散体。

【請求項6】

(C) 水不溶性有機化合物が、リン酸エステル、脂肪族ジ又はトリカルボン酸エステル、及びグリセリルアルキルエーテルからなる群より選ばれる1種以上である、請求項1~5のいずれかに記載のインクジェット記録用水分散体。

【請求項 7】

(C) 水不溶性有機化合物のLog P値が、-1～1.1である請求項1～6のいずれかに記載のインクジェット記録用水分散体。

【請求項 8】

水分散体中の(C)水不溶性有機化合物の含有量が0.4～1.0重量%である、請求項1～7のいずれかに記載のインクジェット記録用水分散体。

【請求項 9】

[(B)ポリマー粒子/(C)水不溶性有機化合物]の重量比が、1.5/1～1/2である、請求項1～8のいずれかに記載のインクジェット記録用水分散体。

【請求項 10】

請求項1～9のいずれかに記載の水分散体を含有する、インクジェット記録用水系インク。

【請求項 11】

請求項10に記載の水系インクを、インクジェット記録方法により普通紙上に印字する、印字物の製造方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明者らは、着色剤と、ポリマー粒子、及び水不溶性有機化合物を含有する水分散体が、インクジェット記録用水系インクに十分な印字濃度を付与し、耐マーカー性に優れたものとなることを見出した。

すなわち、本発明は、次の〔1〕～〔4〕に関する。

〔1〕(A-1)着色剤を含有するポリマー粒子、(B)ポリマー粒子、及び(C)水100gに対する溶解量(20)が5g以下である水不溶性有機化合物を含む、インクジェット記録用水分散体。

〔2〕(A-2)自己分散型顔料(B)自己乳化ポリマー粒子、及び(C)水100gに対する溶解量(20)が5g以下である水不溶性有機化合物を含む、インクジェット記録用水分散体。

〔3〕前記〔1〕又は〔2〕の水分散体を含有する、インクジェット記録用水系インク。

〔4〕前記〔3〕の水系インクを、インクジェット記録方法により普通紙上に印字する、印字物の製造方法。